

保存版スコア:ビル・エヴァンス、スコット・ラファロ「枯葉」
&マイルス・デイヴィス、ウェイン・ショーター「枯葉」

第29巻第11号(通巻第337号)
平成17年11月14日発行
(毎月1回14日発行)

jazzLife

Contemporary Jazz Magazine

2005
NOVEMBER
定価800yen

11

特集

ピアノ・トリオから始めよう

セロニアス・モンク・コンペティション2005

作曲部門優勝報告

授賞式 2005年9月19日

ケネディ・センター“アイゼンハワー・シアター”(ワシントンDC/U.S.A.)



守屋純子

ジョシュア・レッドマン(ts)、ジェシ・ヴァン・ルーラー(g)ら、多くの才能あるジャズマンの登竜門となってきたモンク・コンペティション。今年の作曲部門では、なんと日本の守屋純子が優勝し、アジア人初、そして女性としても初の栄誉を獲得した。受賞までの経緯、そして豪華なゲストが登場した授賞式の模様などを、守屋純子自身のペンでお伝えしたい。

今回日本人として、また女性として初めてこの権威ある作曲賞をいただくことができ、本当に光栄に思っています。

応募のきっかけは、わたしのCDのプロデューサーであるドン・シッラー氏に勧められてのことでした。ただ、2005年度のテーマは“ギターのための曲”で、ギター曲など書いたことがないわたしにとって自信などあるわけもなく、世界中から応募のあるコンペです

し、とりあえず「何か書いて出しておくか」という程度の軽い気持ちで応募しました。

それが、8月21日に突然電話があり、“こちらはワシントンのモンク・インスティテュートですが、あなたが優勝に決まりましたので9月19日の受賞演奏会にお越しく下さい”と言われた時は、にわかには信じられない思いでした。応募時には公開されていなかった作曲部門の審査員が、ロン・カーター(b)やケニ

ー・ワーナー(p)といった大物ミュージシャンだったことにも驚きました。

受賞式当日は、先にギター部門ファイナリスト3人の演奏があり、その後が作曲賞の発表でした。まずこの賞のスポンサーであるBMI(アメリカの著作権協会)の社長が、賞の選考経緯、わたしのプロフィールなどを紹介してから、わたしをステージに呼び込みました。当然、記念のトロフィーが賞状を貰える

文：守屋純子

もりや・じゅんこ。4歳からピアノを始め、早稲田大学ハイソサエティ・オーケストラでジャズに目覚める。1991年にニューヨークのマンハッタン音楽院に留学。帰国後はピアノ以外の多管編成にも積極的に取り組み、1997年にオクテットによる初リーダー作を発表した。その後、自らの守屋純子オーケストラを率いて、2001年「シブティング・イメージズ」、2005年「ポイント・オブ・ティバーチャー」をリリース、ライブ活動にも力を注いでいる。
<http://www.mars.dti.ne.jp/junkomry/>



「ポイント・オブ・ティバーチャー」
守屋純子オーケストラ
(スパイス・オブ・ライブ SOL JP-0001)



◀モンク・コンペ作曲部門のスポンサーであるBMI(アメリカの著作権協会)社長デル・プラリアントから賞金1万ドルを授与され、栄誉を讃えられる守屋純子。

photo by CHIP SOMODEVILLA

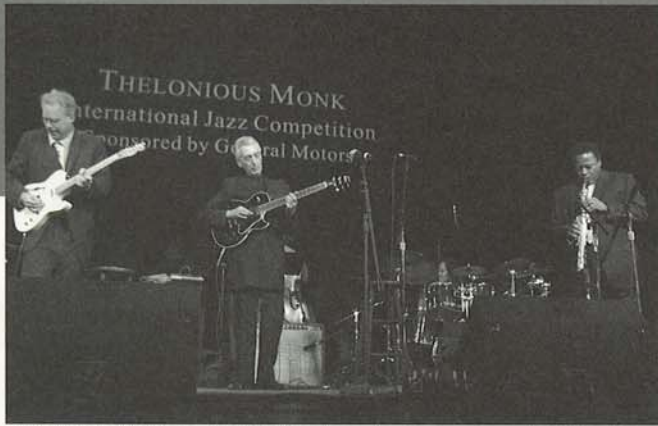


◀ジョージ・ベンソンをはじめとする審査員ギタリストたち、そして、ハービー・ハンコック(p/ホスト)、TSモンク(ds/ホスト)、テレンス・ブランチャード(tp)、クラーク・テリー(tp)ら、多数のゲストが並んで受賞者を讃えた。センターに居るのが、ギター部門優勝のラーゲ・ルンド。



◀“セロニアス・モンク・コンペティション2005”のオフィシャル・ガイド・ブックにも、写真とともに守屋純子のプロフィールが掲載されている。

◀受賞曲「ブレイグラウンド」の記念演奏の前に、受賞の挨拶をする守屋純子。後ろはギターのアンスニー・ウィリアムズで、他のメンバーは、ドン・シッラー(tp)、クリス・ボッター(ts)、ジェームス・ジナス(b)、テリ・リン・キャリントン(ds)。



↑審査員やゲストによるセッション演奏タイムのヒトコマ。ウェイン・ショーター(ss)、バット・マルティノー(g)、ビル・フリゼール(g)、ハービー・ハンコック(p)、そして、ジェイムス・ジナス(b) & テリ・リン・キャリントン(ds)という超豪華メンバーが、「フットプリンツ」を演奏。



↑左から、サポート・バンドのテリ・リン・キャリントン(ds)、イベント・ホストであるハービー・ハンコック、守屋純子、そして、サポート・バンドのボブ・ジェイムス(p)。



↑ディー・ディー・ブリッジウォーター(vo)とジョン・ビザレリ(g,v)が、巨匠クラーク・テリー(tp)を盛り立てた。観客も元気なクラークの姿に大きな声援を送る。



↑ラッセル・マローンとアール・クルーという華やかなツイン・ギター・ユニットは、「星影のステラ」を演奏。ちなみに、この日のゲスト演奏のトップはジョージ・ベンソン(g)による「オン・ブロードウェイ」だった。



↑タッピング・ギターのオーソリティであるスタンリー・ジョーダン、ディー・ディーやテレンス・プランチャード(tp)らと共演。曲は、ハリケーンで被害を受けたジャズの故郷ニューオーリンズを激励して「ミス・ニューオーリンズ」。

ものと思って楽しみにしていたのですが、渡されたのは、賞金1万ドルの小切手が入ったペラペラのビジネス封筒1枚。

2~3万円のお祝い金でもきれいなご祝儀袋に包む習慣の国から来た者としては、このあじけなさにはびっくりです(授賞式後に、その封筒にハービー・ハンコック(p)のサインをもらって、自分なりに少しでも記念品としての価値を上げる努力はしましたが……)。

わたしの受賞スピーチの後、いよいよ受賞曲の演奏です。ジェイムス・ジナス(b)とテリ・リン・キャリントン(ds)は、どのような曲を演奏しても、その曲の格を一段上げるリズム・セクションという印象で、音を出した瞬間にコミュニケートでき、単に譜面を読むだけでなく、その非常に深い部分まで解釈してくれました。クリス・ボッター(ts)やアンソニー・ウィリアムス(g)のソロももちろん素晴らしく、自分が頭の中でイメージしていた以上の素晴らしい曲になったと思います。しかも、舞台袖では、ジョージ・ベンソン(g)、ディー・ディー・ブリッジウォーター(vo)、クラーク・テリー(tp)、ウェイン・ショーター(ts)といった、CDで何度も聴き込んだ憧れのミュージシャンたちが演奏を聴いているのですから、感激も一人です。素晴らしいメンバーに囲まれて本当に楽しくリラックスして演奏することができたお蔭か、お客様の反応も上々でした。

受賞曲「ブレイグラウンド」は「こどもたちが、気分次第であっちへ行ったり、こっちへ行ったり気まぐれに遊ぶ様」をイメージした曲なのですが、「そういう様子が目に浮かぶようだ」とか、「作曲賞をとるような曲は難解

な曲のこともよくあるが、今回の曲はすんなりとメロディが入ってきて、理屈抜きで楽しめた」とか、アメリカの観客は具体的に褒めてくれるのが嬉しいですね。よく「音楽は世界共通の言葉」と言われますが、心の底からそれを実感できたのが、今回の一番の収穫でした。

ジャズはもともとアメリカで産まれた音楽なので、わたしもアメリカのジャズの伝統を最大限学び、受け継いできたつもりです。でもわたしたちは日本で生まれ育っているわけですから、日本人独自のジャズ観というものをご否定してはいけなと思うのです。自分のアイデンティティをジャズという文化につけ加えられないと、永遠に、アメリカのジャズは超えられないということになってしまいますから。

私は常々、ジャズにおいて、最も大切なのは、個性、すなわちその人にしか出せない独自の音を持つことだと思ってきました。それによってジャズは国籍・性別・年齢を超えた価値を持つと思うのです。受賞曲はわたしのオリジナルですから、無意識のうちに日本人としてのわたしの個性が色濃く反映されていると思いますが、それがアメリカ最大のジ

ャズ・コンペで認められたことを特に嬉しく思います。

幸せとは目に見えないものですが、もしわたしにとっての幸せを具体的に表現するとしたら、「まさに今この瞬間のことを指すのだろうか」と思うくらい素晴らしい経験を、今回させていただきました。この賞がとれたのも、今までわたしの曲を演奏してきてくれた音楽仲間たち、いつも聴いてくださる観客の皆様のお蔭と、本当に感謝しています。

過去の錚々たる受賞メンバーのラインナップを見るにつけ、今後の責任は重大で、これを機会にますます精進して参りたいと思っております。これからも応援のほど、よろしくお願いたします。



↑授賞式後のパーティで、セロニアス・モンク(p)の息子であり、当日のホストを務めたTSモンク(ds)の祝福を受ける守屋純子。

守屋純子オーケストラ

セロニアス・モンク・コンポーザーズ・コンペティション優勝記念ライブ

2005年11月9日(水) 東京・六本木 STB 139 スイートベイジル

出演：守屋純子(p,arr)、エリック・ミヤシロ(tp)、木幡光邦(tp)、奥村晶(tp)、高瀬龍一(tp)、近藤和彦(as)、緑川英徳(as)、小池修(ts)、アンディー・ウルフ(ts)、宮本大路(bs)、中野英明(tb)、片岡雄三(tb)、佐藤春樹(tb)、山城純子(tb)、安力川大樹(b)、大坂昌彦(ds)
問合せ：同店(03-5474-0139)。http://stb139.co.jp